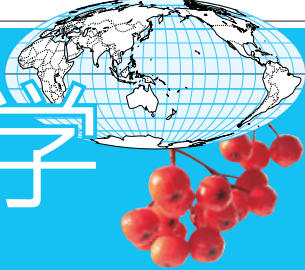


学報

学校法人 北海学園
北海商科大学
アジアの時代に、アジアを学ぶ。
Hokkai School of Commerce Newsletter



Vol. 21
2016.12.21
発行:北海商科大学
編集:北海商科大学広報委員会
〒062-8607
札幌市豊平区豊平6条6丁目10番
TEL:011-841-1161 (代)
FAX:011-824-0801
http://www.hokkai.ac.jp
制作:(株)ラボット

主な記事

3.	オープンキャンパス開催	2面
4.	山東大学(威海)と煙台大学から短期研修生受入	2面
5.	交換留学生出発	2面
6.	後期ガイダンス実施	2面
7.	キャリア支援センターによる就職支援について	3面
8.	2年次所属学科決定	3面
9.	北海道高等学校進路指導協議会の開催	3面
10.	北海道地域観光学会開催	4面
11.	北海道の将来を探る研究プロジェクトを始動	4面
12.	外国語スピーチコンテスト・試験の結果報告	4面
13.	李ゼミ 韓国研修旅行	5面
14.	中鉢ゼミ ゼミ調査「祇園祭を体験する」	5面
15.	留学だより	5面
16.	第4回高校生懸賞作文の募集と表彰式	6面
17.	「研究のいま」李鳳先生	6面
18.	ゼミ訪問 保坂ゼミ	6面
19.	2016年度後期公開講座開催	7面
20.	体育祭開催&北海商科祭 Photo Gallery	7面
21.	名誉教授称号授与	8面
22.	UR都市再生機構と連携協定	8面
23.	アクティブラーニングへの取り組み	8面
24.	医務室から「二十代の健康」連載⑩	8面
25.	交換教員紹介、大学院生紹介	8面
26.	新刊紹介	8面
27.	浅羽祭举行される	8面
28.	行事予定	8面

第11回 北海商科祭開催。

テーマ STEP TO THE FUTURE – 終わりになき未来への挑戦 –



軟式野球部

1部リーグ昇格決定

本学軟式野球部は、平成28(2016)年度北海道地区大学軟式野球連盟秋季リーグ戦（9月26日～10月12日開催）2部リーグを各選手・マネージャーの活躍・連携の下に6戦全勝で終え、10月12日、道立野幌総合運動公園硬式野球場で行われた対北星学園大学1・2部入替戦に5対1で勝利し、次年度春季リーグ戦1部昇格を果たしました。各部員は勉学に忙しくも、休養・トレーニングに勤しみ1部残留を目指しています。（原子）



北海商科祭報告記

去る9月24日、晴れ上がった爽やかな天気の下で第11回北海商科祭が開催されました。会場には多数のテントが設営され、中では韓国料理等の定番メニューに加えて新メニューも登場し、JA道央「のっぽろ野菜直売所」にはオープン直後から一般客が多数押し寄せました。

今商科祭は、ステージをかつての場所に復活させました。そのステージでは、「歌うま王に俺はなる」に始まり、「商科大Food Fight」、サークル「\$DIP」のダンスショー、新企画「ストッキングバトル」、アーティストLIVE「Miss Carat」等の企画で盛り上がりました。また、地域との交流企画「とよひらふれあいステージ」では、豊平児童会館の子供たち、地元チアリーディングチーム「BUTCHERS」やYOSAKOIチーム「舞とよひら」のパフォーマンスが披露されました。一方、校舎内3Fでは迷路「ミニラビリンス」やミニシアターが運営されていました。

そして夕刻迫る頃、アーティストLIVE「白井美彩」、お笑いLIVE「すずらん」に続き、いま最もノッテル芸人「トレンディエンジェル」の登場となりました。彼らが登場すると会場には歓声が起こり、おなじみのギャグの連発で会場はおおいにヒートアップしました。エンディングは実行委員とMiss Caratのコラボ司会による恒例のお楽しみ「大抽選会」が行われ、会場の興奮はクライマックスに達しました。

最後に実行委員長の齊藤さんの終了挨拶で、2016年の北海商科祭はフィナーレを迎えました。協賛企業の開拓・交渉に奔走し、模擬店・イベント企画に尽力した実行委員ならびにサークル連合の諸君は、精一杯がんばってくれました。本当にご苦勞様でした。（佐藤博）

INTERVIEW ● 軟式野球部 ●

1部昇格を成し遂げた軟式野球部員(1年生7名・2年生5名・3年生8名・4年生6名)に、お話を聞きました。

■和泉谷涼太君 (主将、商学科3年・網走南ヶ丘高校)

昨年は悔しい思いもたくさんしてきましたが、4年生と一緒にやれるのも最後なので頑張りました。これまでは、生川さんという大エースの存在や4年生の力が大きく、優勝、1部昇格ができました。来年は4年生の抜ける穴が大きいので、新しい戦力を獲得して何とか継続して1部に残りたいと思います。

■生川幹久君 (投手、観光産業学科4年・北海学園札幌高校)

昨年2部に上がったこともそうですが、今年のうちに1部昇格ができるとは思っていませんでした。これまでの野球経験の中で一番の喜びでした。後輩には、是非夢だった全国大会に行きたく思います。

■大川拓馬君 (外野手、商学科3年・江別高校)

春季も優勝したのですが、入れ替え戦で負けてしまいました。4年生と野球ができる最後だったので、優勝できてとても嬉しかったです。一部はこれまでと違ってハードな日程で強敵ばかりです。チーム力、団結力で頑張りたいと思います。



オープンキャンパス開催



高校生やその保護者などを対象に大学構内を見学用に開放するオープンキャンパスが、今年も6月26日の日曜日、夏休み期間中の8月7・8日、さらに9月25日の日曜日の延べ4日間にわたり、本学において開催されました。

オープンキャンパスの参加者を集めた全体の説明会では、まず東京以北で最大の200万人に迫る人口を擁する札幌市内で唯一の商学部である本学について、日本におけるビジネス教育の歴史を加味した学部・学科の概要説明が入試・広報センター長よりありました。これに続いて担当事務より、本学の特色あるカリキュラム構成、非常に便利な大学生活、見識を広げる海外留学制度、好調を続ける就職状況などについて、具体的な内容や特色を取り上げつつ懇切丁寧な説明がおこなわれました。

また説明会に続いて設けられた模擬講義では、地元北海道企業とコラボレーションした新商品スイーツの開発に取り組むゼミナールの学生による成果発表や、国の入試制度改革の一環で大学入学試験への導入が検討されている小論文についての書き方教室が催されました。さらに説明会と並行して設定された恒例の語学体験コーナーでは、中国語・韓国語・英語の外国語会話に関して好奇心を大いに刺激する模擬講義が協力学生も加わり開催され、本学の学びの一端を鮮明に印象付ける機会を提供していました。

参加者へのアンケートで好評の先輩（在学生）によるアドバイス付きキャンパスツアーや、担当者が来学者の具体的質問・疑問に答える個別相談コーナーに加え、本年度は2号館1階にカフェ・スペースを設け、かき氷やコーヒーなど季節ごとの飲み物などを参加者に提供するサービスを始めました。立ち寄った参加者が在学生と談笑するなど、ホッとしたり一時を過ごす様子が見られました。

豊平キャンパスでの10年が過ぎ、いわば第2ステップ1年目を迎えた本年度は2号館が開設され、これからも大学として魅力のブラッシュアップが期待されています。引き続き、北海商科大学にご期待ください。（村松）

写真上：橋元ゼミ生による成果発表 下左：受付のようす
下右：カフェスペースで参加者にかき氷を提供
写真はいずれも第二回オープンキャンパス（8月7日）

山東大学（威海）・煙台大学からの短期研修派遣受け入れ

去る7月5日、本学の交流協定校である山東大学(威海)から10名(男子1名、女子9名)、煙台大学から6名(男子3名、女子3名)の研修生が山東大学の王彩芹先生の引率で千歳空港に到着し、当日、すぐ北見校地に向かいました。6日から9日までの4日間は北見校地にて日本語研修を受け、北見北斗高校の文化祭を見学。10日に札幌に移動し、11日から27日までは本校8階の開発政策研究所で日本語研修を受けたほか、校外研修①(札幌時計台、道庁赤レンガ、札幌駅、北海道大学構内などの見学)、校外研修②(酪農と乳の資料館、支笏湖、岩塚製菓、キリンビールパーク)などを行いました。27日の午後には森本理事長宅で修了式が行われ、研修生一人一人に森本理事長から修了証書が手渡された後、夕食会が行われました。研修生一行は翌28日に札幌を離れ無事帰国しました。（水野）

交換留学生が出発

去る8月29日、韓国の大田大学校の短期留学プログラムに参加する学生12名(女子12名)が千歳空港から出発しました。参加学生は5月に行われた留学生選抜試験に合格した学生です。本学の提携校である大田大学校において、約5ヶ月間にわたり、語学プログラムを中心に韓国文化や生活風習についての留学プログラムを受講し、来年の1月17日に帰国する予定です。また、8月31日に中国の山東大学(威海)の短期留学プログラムに参加する9名(男子6名、女子3名)、煙台大学の同プログラムに参加する12名(男子10名、女子2名)が新千歳空港を出発しました。参加学生は同じく5月に行われた留学生選抜試験に合格した学生です。各協定校において、約5ヶ月間にわたり語学プログラムを中心に中国文化や生活風習についての留学プログラムを受講し、来年1月14日に帰国する予定です。なお、中国の協定校派遣学生には本学の蘇林教授と共に竹野学教授が同行し、山東大学(威海)・煙台大学で両校の学生さんを対象とする特別講義を実施しました。（水野）



写真左：出発前の韓国交換留学派遣学生 右：出発前の中国交換留学派遣学生と同行する教員



上の写真はすべて修了式

後期ガイダンスを実施

平成28(2016)年度後期ガイダンスを9月14・15日に実施しました。14日午前に2年次、午後に1年次、15日午前に3年次、午後に4年次、それぞれ各学年に必須の連絡事項と注意事項について、教務センター、学生支援センター、キャリア支援センターがガイダンスを実施しました。教務センター長から本学の3つのポリシー（アドミッション・カリキュラム・ディプロマ）を説明し、大学の基本方針を確認しました。また、2号館の全面的な利用開始に際して、講義中のマナーとしてコンピュータ教室内での飲食禁止など、利用上のルール of の徹底を図るため、指導を行いました。各学年のガイダンス終了後に2年次と3年次の専門ゼミナール申込と履修許可発表を行い、9月16日から9月20日の期間にGPA順に各学年の履修登録を行い、履修登録科目の訂正を9月21日と23日に実施しました。後期の講義は9月26日から開始しました。（柳川）



写真左：3年次後期ガイダンス 右：柳川博教務センター長による教務ガイダンス

キャリア支援センターによる就職支援について

当センターでは3年生の学生諸君に対して、年度初めより就職・公務員ガイダンスを順次開催しています。また、分野別の就職支援として、前期は適性検査受検とフィードバック、インターンシップ説明会とマナー講座を、後期では複数回にわたるグループディスカッション、エントリーシート・履歴書、模擬面接の各種講座、その他にSPI模擬試験とフィードバック、インターンシップ報告書提出とフィードバック面談、職種研究会、面接講座、就活メイク講座、マナー講座を行っています。さらに前後期を通じて企業・業界研究と自己分析講座を実施しています。また、後期の個人面談では、企業訪問で得られた情報をもとに、当センターの教職員が学生一人ひとりに就職指導を行っています。そして、これらの支援に加えて、11月から1月にかけて北海学園大学と共催で学内OB・OG訪問や学内業界研究会を開催します。さらに、年度末の3月には多数の企業や各種団体・公務員の人事担当者を迎え、北海学園大学との共催で合同企業説明会（昨年度は1日あたり約50社参加、計5日間）を開催しています。上記の支援の中で、後期の「職種研究会～営業職編～」は、今年度から始めた新企画です。この研究会は、昨年度より2年次前期で開講した「職業キャリアデザイン」の締め括りともいえる講座です。今回は“今どきの営業職の仕事”を知ってもらおうと企画し、リアルな現場の話を聴いてもらうために、外部講師を招いて実施しています。なお、他の講座においても、適宜に外部から専門の講師を招聘しています。

一方、就活中の4年生に対しては、北海学園大学との共催のもとに合同企業説明会を春と秋の年2回開催しています。また、学内の就職情報センターにおいて、逐次求人企業情報を開示しています。加えて、本学では北海学園大学と共同で就職支援システム「ミナトコム」を導入し、多数の求人情報を迅速に検索できるシステムを整備しています。本システムによって、就職支援イベントの情報を閲覧し参加することができますが学生諸君の利便性を考えて、ミナトコムの機能を利用し学内外から申し込みができるようになっています。このような支援体制のほか、上記のように昨年度より「職業キャリアデザイン」の授業を開講し、社会から求められる能力や仕事の多様性などについての学習の場を設けています。さらに、専門キャリアアップ科目(APQ)として社会行政論、情報管理論、旅行業務論、税務会計論、通商実務論、PAL(専門職中国語・韓国語、TOEIC英語)などを開講し、資格取得や検定のための支援をしています。当センターとしては、学生諸君にとって必要な情報の収集と提供業務を柱にして、今後もきめ細かな支援を行っていきます。（田辺）



写真左：SPI模試フィードバック



右：グループディスカッション講座実践編

2年次所属学科決定



後期 2年次ガイダンス

平成23(2011)年度入試から学部入試に移行したことによる2年次後期に所属学科を決定するための作業は今年度で5回目となります。学生の所属学科希望を考慮し、各学科の入学生員に対し極端に希望が偏った場合には、1年次の成績評価によるGPAポイントを活用して所属学科の選考を行うことを1年次ガイダンスより周知させ、3月24日の新2年次ガイダンス、5月18日の第1回所属学科選考ガイダンス、次いで6月7日から6月16日にかけての商学科・観光産業学科の専門ゼミナール見学会を実施し、6月29日の第2回所属学科選考ガイダンスにて「志望学科届」を配布し、7月1日午後4時までを提出期限とし、選考作業を行いました。選考対象学生171名のうち商学科志望87名、観光産業学科志望81名、志望学科届未提出者3名となり、観光産業学科の定員60名を超過したため、観光産業学科志望81名のうちGPA順で21名を商学科、未提出者3名を商学科所属とし、商学科111名、観光産業学科60名の学科を決定しました。選考結果は、2年次後期ガイダンス前の9月13日に学内掲示板で発表しました。例年よりも多い学科間の移動となり、所属学科発表後の科目履修や専門ゼミ履修等の相談体制を昨年よりも強化し、後期の講義を支障なく開始することができました。（柳川）

3年生対象 就職ガイダンス・講座および就活支援イベントのスケジュール一覧 [2016年度]

前期			後期		
No.	ガイダンス / 講座等名	開催日時	No.	ガイダンス / 講座等名	開催日時
1	第1回就職ガイダンス	4月19日(火) 4月21日(木)	1	第3回就職ガイダンス	10月3日(月) 10月6日(木)
2	第1回公務員ガイダンス	4月26日(火) 4月28日(木)	2	SPI模擬試験	10月11日(火)～14日(金)
3	適性検査受検	5月9日(月)～13日(金)	3	インターンシップ報告書の提出 & フィードバック面談	10月24日(月)～11月4日(金)
4	インターンシップ説明会	5月13日(金)	4	SPI模試フィードバック	10月31日(月)
5	適性検査フィードバック	6月10日(金)	5	グループディスカッション講座 ～グループディスカッションとは？	11月8日(火) 11月10日(木)
6	自己分析講座	6月14日(火) 6月16日(木)	6	グループディスカッション講座 ～実践編 Part1～	11月14日(月)～18日(金)
7	企業・業界研究講座	6月21日(火) 6月23日(木)	7	職種研究会～営業職編～	11月21日(月)
8	第2回公務員ガイダンス	7月5日(火) 7月7日(木)	8	企業・業界研究講座	11月22日(火) 11月24日(木)
9	第2回就職ガイダンス	7月12日(火) 7月14日(木)	9	自己分析講座	11月29日(火) 11月30日(木)
10	インターンシップ前講義 ビジネスマナー講座	7月22日(金)	10	個別面談	12月1日(木)～14日(木)
◎学内業界研究会：11月28日(月)～12月9日(金) ◎学内OB・OG訪問：2016年12月12日(月)～2017年1月20日(金) ◎合同企業説明会：2017年3月1日(火)～4日(土)（本年度は4日間の日程で、昨年度とほぼ同数の企業が参加する予定です。）			11	グループディスカッション講座 ～実践編 Part2～	12月19日(月)・21日(火)・26日(月)
			12	エントリーシート・履歴書講座～ エントリーシート・履歴書とは？	12月20日(火) 12月22日(木)
			13	面接講座～面接とは？～	1月10日(火) 1月12日(木)
			14	模擬面接（集団面接） ～実践編 Part1～	1月16日(月)～20日(金)
			15	就活メイク講座	1月23日(月)
			16	マナー講座（男子編） マナー講座（女子編）	1月24日(火) 1月26日(木)
			17	エントリーシート・履歴書講座～ 実践編～	1月25日(火)・27日(金)・30日(月)
			18	模擬面接（集団面接）& グループディスカッション講座	1月31日(火)⇒模擬面接 2月1日(火)⇒グループ ディスカッション講座



北海学園大学と共催の学内業界研究会（11月29日北海学園大学）

北海道高等学校進路指導協議会の開催

11月4日、北海道高等学校進路指導協議会(進学・就職指導研究協議会事例研究・情報交換会)が本学を会場として開催されました。同協議会は道内公私立全289校が加盟し、北海道の高等学校の進路指導の在り方の考察、実践の支援に資することを目的にして、39年間にわたる活動が続けてきています。当日は、道内の高等学校の進路指導担当の先生方約90名が参加され、盛大に開催されました。開会式では、はじめに同会の白野勝義会長(北海道札幌琴似工業高等学校長)が挨拶にたち、直近の就職内定状況や大学入試改革の動向などに言及されました。次に、会場校を代表して本学の森本正夫学長(学校法人北海学園理事長)が挨拶にたち、昨今の教育改革の動向を踏まえつつ、本学の現状はもとより、北海学園全体の歩み、地域貢献や高大連携の在り方などについて述べられました。引き続き行われた全体会では、本学の堂徳将人教授が「激動の時代における進路指導を考える～高大接続の一体的な改革に応じた進路指導の在り方～」と題して講演し、激変する社会に応じた人材を育成するための高大接続改革の意義と役割、高校と大学の教育改革の現状と課題が考察されました。その後、第1分科会(進路学習)では、加賀彰教諭(北海道三笠高等学校)が「三笠高校の進路学習の現状と課題」、第2分科会(進学指導)では、欽秀樹教諭(北海道網走南ヶ丘高等学校)が「志望理由を深める指導」、第3分科会(就職指導)では、伊藤準教諭(北海道北広島西高等学校)が「本校のキャリア教育と就職指導の現状」と題して研究発表を行い、各分科会ごとに事例研究と情報交換が行われました。



北海道高等学校進路指導協議会で講演する本学・堂徳将人教授

北海道地域観光学会 開催

平成28(2016)年7月23日(土)午前9時30分より、本学を会場に北海道地域観光学会の第3回全国大会が、『北海道におけるインバウンド観光の未来と課題』をテーマに開催されました。

近年急速にインバウンド(訪日)旅行者が増加し、今年はじめて、1年間に日本を訪れる旅行者の数が2千万人を超えることが話題になっています。本学の教員が中心となって企画したこの大会では、インバウンド観光をテーマにしながら、一般に取り上げられている話題の持ち方とは趣向を変え、新たな視点で取り組まれました。つまり、北海道におけるインバウンド観光の話題の多くは都市部を中心に展開していますが、都市部以外の地域へも視点を向けることにより、北海道観光の将来を展望しようとする企画で実施されました。こうした視点から、『日胆地域における新たなインバウンド観光推進への取り組み～森蘭航路プロジェクト～』と題した日本データサービス株式会社の東本靖史さんの基調講演をはじめ、多彩な研究発表、本学の教員と大学院生による自主企画ワークショップ、そして地域で活躍する現役の観光関係者と研究者による大会テーマのシンポジウムなどが行われました。参加者の中には、研究者や大学院生・学生など学会の会員だけでなく、多くの札幌市民も含まれ、活発な意見交換が行われました。(細野)



写真左：ワークショップでの本大学院商学研究科1年・中井龍さんによる研究報告
写真右：シンポジウム「北海道におけるインバウンド観光の未来と課題」



外国語スピーチコンテスト

来年健闘しましょう！

10月23日に「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」が行われました。この大会には、暗誦部、朗読部、弁論部と三部設けられています。5月28日に行われた『漢語橋』世界大学生中国語スピーチコンテスト北海道予選会では、本学から4名が参加し、入賞は3位の1名にとどまりました。

この「全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会」にも本学から4名が出場し、全員健闘した結果、2年生の三塚夕貴さんは暗誦部で見事に優勝、寺島桜河君は弁論部で3位、1年生の今野杏香さんは朗読部で2位を受賞しました。学習歴わずか数ヶ月しか有しなかった今野さんは、感情を込めて指定された文章を朗読したので、高く評価されました。

今年度の最優秀賞は札幌大学石田君に見事に獲得されました。彼は中国語を専攻している4年生で、昨年中国政府の国費留学生に選抜され、中国に留学された経験があります。彼がごく自然流暢な中国語が話せたのは、やはり彼の学習熱意や普段一所懸命に勉強していることを物語っています。今回のスピーチコンテストに出場した本学の学生にとっては、

貴重な勉強のチャンスになったと思います。

今後、北海商科大学の中国語履修者がスピーチコンテストで最優秀賞を獲得するためには、普段の学習においてはもっと頑張らなければなりません。北海商科大学の中国語履修者は、頑張れ！頑張れ！もっと頑張れ！

なお、この場を借りて、今回熱心に出場者を指導してくださった中国人交換留学生の皆さんには、心から厚く御礼申し上げます。また、積極的にスピーチコンテストに参加した学生に敬意を表したいと思います。皆さん、お疲れ様でした！また来年健闘しましょう。(蘇)

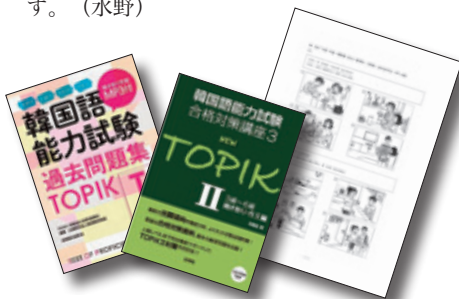


全日本中国語スピーチコンテスト北海道大会の入賞学生のみなさん(左から、今野杏香さん、三塚夕貴さん、寺島桜河君)

上半期韓国語能力試験結果

去る4月17日(日)、韓国政府(教育省)が認定・実施する韓国語試験である韓国語能力試験・上半期(TOPIK、主管・韓国教育財団)が実施され、本学からも韓国語を履修した学生が試験に挑みました。この試験は韓国語の教育評価を標準化し、韓国語学習者に学習方法を提示するとともに、韓国語の普及や、試験結果の学習・留学・就職等への活用などを目的に、世界70カ国以上で一斉に実施されています。本学の校舎が北海道地域での試験会場になっています。また、2016年度より韓国語能力試験6級合格者は、通訳案内士(日本政府観光局)の韓国語科目試験が

免除になりました。試験結果は5月26日に発表され、6級・1名、5級・3名、4級・7名、3級・9名の合格者を輩出しました。10月16日には下半期の試験も実施されています。(水野)



ハINASとdec、 北海道の将来を探る研究 プロジェクトを始動



複数の教員が担当する第4セメスター・特殊講義IIの北海道創生プログラム講義B

北海学園北東アジア研究交流センター(ハINAS、森本正夫センター長)と一般社団法人・北海道開発技術センター(dec、佐藤馨一会長)による「北海道創生プログラム研究プロジェクト」は2016年度から、北海道の将来的な地域発展に向けた政策課題を検討する研究を進めています。

研究プロジェクトは、2016年から25年までの地域振興の基本方針を定めた国の第8期北海道総合開発計画を取りあげます。同計画は、食と観光を柱に北海道の潜在力を最大限に活用し、2050年までに「世界の北海道を目指す」との基本方針を掲げています。農林水産業と関連産業の技術革新を通じ、道産食品の輸出を拡大したり、外国人観光客の受け入れ環境を整備して観光消費をさらに促進したりすることを目指しています。

研究プロジェクトは、こうした振興政策の有効性を、道南の八雲町・木古内町や、北海商科大学と地域連携協定を結ぶ道央の栗山町での現地調査を通じて検証します。

木古内町では、北海道新幹線の延伸が沿線地域にもたらす影響を予測するため、新幹線が函館から東京まで開業して以降の地域経済の変化を調査します。

栗山町では、北海道総合開発計画の重点が観光に置かれるなかで、観光資源の乏しい地域はどのように将来構想を描くべきかを、同町と協力しながら考察していきます。

研究プロジェクトの意義について、ハINASの研究部門を統括する西川博史教授は「北海道の地域振興といえば食と観光、という政策が一般的ですが、こうした政策の実行が容易ではない地域も多いのです。よりよい政策設計のために、地方自治体と大学が連携し、政策と現状を十分に検証していきます」と話しています。

この研究プロジェクトは本学の特殊講義「北海道創生プログラム」とも連携しています。(佐藤千)

10

11

12

中国語入賞原稿(日本語訳)

● 商学部2年 寺島 桜河君「日本人と中国人」●

近年日本では中国についての事がよく報道されています。様々なニュースが報道されていますが皆さんはどう思いますか？ 私は去年から今年までの一年間中国に留学していて、そこで感じた事を皆さんに伝えたいと思います。

まずはじめに私は山東省の煙台大学に留学していました。そのためもしかすると中国全体の文化というわけではないかもしれないのでご了承ください。

一つ目は中国人は日本人に比べて優しいと感じました。なぜなら私が中国に留学していた時に良く「ありがとう」「どういたしまして」を耳にしました。日本で店員に「ありがとう」と言われて誰かが「どういたしまして」と言うのでしょうか？ 初めは中国人と関わる機会を余り持とうとしなかったのですが、この事に気付いてからは自分から積極的に関わりを持つようになりました。日本人には無い優しさを持っています。

二つ目は大学生として中国の授業に参加して感じた事で、それは中国の学生の真面目さです。授業に対する姿勢には驚かされました。中国の学生は一番前の席に自分から座り、積極的に意見を言う人が多く自分の大学とは全く違う雰囲気でした。元々中国では大学の数が少なく必死に勉強しなければ大学に入る事ができない、日本には沢山の大学があるという相違点もございいますが、勉強に対する勤勉さは学ぶ必要があると感じました。

三つ目は中国人は自分の思ってる事をはっきりと言う所です。留学したばかりのころは、中国人と交流してみると冷たいと感じたり、遠慮なく話していると感じたりもしました。ですがこれは自分の思っている事をはっきりと言う、一種の文化なのです。日本人は協調性を重視しますが中国人は違います。ですがもし日本人の様な気質をした中国人がいるとしたら、その人は決して成功する事は出来ないと思います。中国にいる時は自分の意見をしっかりと伝えるべきです。私は自分に自信を持てず、留学中に自分の意見を積極的に言っていないでました。彼らのおかげで気づかされたのは、失敗を恐れずに不慣れな言葉でもまずは自分を表現する事が大事、という事です。

日本人は自分の意見を伝えたりするのが得意ではありません。これは少し良く無い事だと思います。外交の時には、しっかりと自分の要求を伝えるべきです。意見を伝えるのが苦手というのは経済の発展を遅らせたり、外国との関係が悪くなってしまうという事も引き起こしてしまうかもしれないのです。今日も日本の経済は特別良いわけではありません。もっと世界に追いつくためにも少しでも、自分の意見をしっかりと伝える事をすれば少しずつ日本の経済も良くなると思います。日本が中国から学ぶべきところも沢山あるのです。

ですが時には、この様な文化の違いが誤解を招いたり、良くない方向に行くこともあります。

でも実のところ私は中国と日本人は理解し合う事は難しい事ではないと考えます。文化の違いについて述べましたが同じ所も沢山あるからです。衣食住には大きな違いはないですし、なにより日本語は元々中国を基本に作られたもの、他にも昔中国から様々な物が伝えられてきました。将来必ず理解し合える日が来ると思います。もし私たちが協力すれば今よりもより良い日本になると思います。難しい事ではないと思います。なぜなら私には沢山の中国人の友達がいるからです。

李ゼミ

韓国研修旅行



大田大学校で

異文化体験で大きな収穫

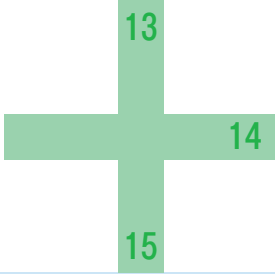
平成28(2016)年度の李炯直ゼミ（1年生異文化ゼミナール）では、韓国に関心の高い学生が多いため、平成28年9月8日～13日に韓国研修旅行を実施しました。9月8日に新千歳空港を出発し、釜山（金海空港）に到着、翌日、北海商科大学の協定校である大田大学校を訪問しました。本学から長期留学をしている富永里緒さん、昨年度大田大学校から本学へ交換留学をしていたキム・ジ Cholさんがキャンパスを案内してくれました。訪問時は大学の体育祭前であったため、グラウンドなどキャンパス内には準備を行う学生たちで賑わっていました。大田大学校は8学部から構成される総合大学であり、緑豊かなキャンパス内に、講義棟、図書館、学生寮などが整備され、その美しさは映画のロケにも使われるほどです。多くの学生たちが図書館に通い、試験前には学習用の閲覧室は事前に席を予約しないと座れないほどの混雑になると聞き、韓国大学生たちの勉強に対する熱意を感じました。訪問中、本学からの日本人留学生たち13名と大学近くの焼肉屋で懇親会を開催し、韓国料理をお腹いっぱい満喫しました。

翌日はソウルの旧跡「景福宮」を訪問し、韓国の歴史、文化を学び、サムゲダンの有名な「土俗村」で昼食をいただきました。学生一同、高麗人参入りのスープで元気を付け、韓国の原宿と言われる明洞では履修している韓国語を存分に使い、買い物や飲食などを楽しみました。韓国のソウル、釜山、大田、大邱の4大都市を中心とした5泊6日の韓国研修旅行で韓国の文化や韓国人との交流を通じて、異文化体験という大きな収穫を得ました。

（李炯直）



景福宮（ソウル）で



中鉢ゼミ

ゼミ調査



清水寺で

祇園祭を体験する

今年のテーマは、「観光資源としての祭り」である。ゼミ調査として7月16日から3日間、京都へ出かけた。あらゆる方法を試して廉価で満足できる旅を目的とした。結果、LCCと外国人用バックパッカーの宿泊施設を利用した。祇園祭は、河原町の交差点で山車の勇壮な回転を2時間ほど見学し、その後は、ゼミ生の決めた順路で京都巡りをした。伏見神社では、千本鳥居で記念撮影など楽しんだ後、清水寺に向かった。地主神社の恋占いの石で盛り上がり、清水で過ごした後八坂神社の御神輿の出発式を見学し、河原町の周辺で夕食を食べて宿に戻った。翌日は、嵐山周辺で自転車での観光と告げられた。アテンドは、学生たちが分担してやっていた。嵐山では、嵯峨野の竹林に感動し写真を撮りまくっていた。また中国人観光客の質問に、日頃の実力で対応していた。中国語、韓国語、英語、初歩のスペイン語のメンバーは、外国人観光客の質問に、観光産業学科に恥じない活躍ぶりだった。最後に嵐山駅の着ものフェスタを見てタイムキーパーの指示によって急いで空港に向かった。この旅で仲間意識が生まれたのは、最高の収穫だった気がする。（中鉢）



写真左上：嵯峨野で中国人観光客に対応 左下：伏見稲荷大社の千本鳥居 右：祇園祭の山車

留学だより

商学部1年 石森 香菜 ● 中国・煙台大学留学

留学中、私たちは中国人の学生と接する機会がほとんどなかった。クラスには日本人と韓国人が大半、フランス人とイギリス人が1人ずついた。韓国人の友達は美味しいもの遊べる場所、なんでも教えてくれた。パーティーにも誘ってくれみんなで練習したダンスを大勢の前のステージで披露した。打ち上げもいい思い出だ。担任の先生は体調を崩すと連絡をくれたり些細なことも気づいてくれ、いつも私たちを気にかけてくれた。寮母さんは名前を覚えて、いつも声をかけてくれた。食堂の人は拙い私の中国語を理解し、久しぶりに行っても笑顔で挨拶してくれた。

留学に来る前、想像していた中国と全然違った。私は私の目で見たと中国が好きになったし、両国の関係がもっと良くなって地理的な距離だけではなく、心の距離も縮まってほしいと思った。そのために私たちがすべきことは、お互いを正しく理解することであると思う。

私たちの当たり前は日本での当たり前なのであって、日本にいる時どれほど贅沢をしていたのだろうと今回の留学で気づかされることがたくさんあった。

思い返せば、中国での生活はとても時間の流れが速かった。最初こそ何をするにも慣れずに不安になるばかりだった。時間が経つにつれ環境にも慣れ新しい発見もあった。一人ひとりが身も心も大きく成長でき、とても有意義な4ヶ月半を過ごすことができたのではないだろうか。



パーティーでのダンス披露後に

商学部1年 漆館 匡太郎 ● 中国・山東大学(威海) 留学

想像と現実のギャップの差に絶望したのが留学にきて最初の感想だったと思います。言葉が通じない、日本での常識が全く通用しない環境に放り出された感覚でした。相手が何を話しているのか、何を伝えようとしているのか、全く理解できずに生活していました。2ヶ月を過ぎた今でもわからないことだらけです。また、食事が合わなかったり、日本よりも早い時間の授業に慣れず体調を崩したり、ストレスが溜まったりと、環境でここまで影響を受けるとは思ってもいませんでした。授業では自分のレベルに合った授業を選択できるようになっていて、語法課、听力課、口語課の3つの授業を受けましたが、どれも授業速度が速く、これまでに習ったことのない文法に悩まされ、数多くの単語に頭をひねる毎日でした。ですが、この授業のおかげで日常生活では少しずつですがコミュニケーションが取れるまでの力がついてきていると実感しています。留学生活は毎日が衝撃の連続でしたが、私は今回留学に参加していろいろなことを学べたと思っています。異国の地である以上慣れないことは多かったですが、しかし、そんな中でも今しか体験できないことを半年も味わえたことにむしろ感謝しています。



日本語学科の学生と交流

商学部1年 鎌田 莉乃 ● 韓国・大田大学校留学

大学に入学する前から目標としていた韓国での留学生活が8月29日から始まりました。実際に韓国に来て、これから始まる韓国での生活にとっても期待が膨らみました。ですが同時に、韓国語を本格的に勉強し始めたのは大学からだったので、韓国語での授業についていけるかなどの不安もたくさんありました。授業が始まってすぐの頃は、先生の話聞くことに精一杯でしたし、現地の人が話す韓国語を聞き取るのは、とても難しく、耳が慣れるまで時間がかかりました。現地の韓国語に慣れると、楽しみながら授業を受けることができるようになり、また、会話の中に学んだことが出てくると、さらに勉強が楽しくなりました。大学生活では、国際言語学科の皆さんと一緒に体育大会に参加させていただいたり、いろいろな国から来た留学生達とフィールドトリップへ行ったりなど、楽しいイベントがたくさんありました。韓国で出会ったいろいろな国の友達といい思い出を作ることができました。

留学生活も半分が過ぎ、残り2ヶ月ですが、現地でしか経験できないことはたくさんあるので、残りの短い時間を充実したものにしたいです。また、1月にあるTOPIKに向けて、勉強も今まで以上に頑張りたいです。



沢山のイベントに参加、交流を深めて

第4回高校生 懸賞作文の 募集と表彰式

北海商科大学主催 第4回高校生懸賞作文を募集しましたところ、今年度は札幌近郊の高校を中心に応募がありました。この懸賞作文の募集は、高校生の鋭い観察眼で現代の市場、マーケティングに関心を持って頂くことを趣旨として、平成24(2012)年度より実施し今回で4回目です。作文のテーマは例年に引き続き「①日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちの観光スポット」「②日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのグルメ」「③日本も含めアジアの人に広く薦めたい私のまちのお土産」のうちどれか一つを選んで応募していただきました。応募があった作文のテーマは、「観光スポット」、「グルメ」で、「お土産」に関するものはありませんでした。今回は1位は該当者なしで、2位、3位として7作文が選考されました（入賞者は右記のとおりです）。

表彰式は12月17日に本学で開催し、入賞者には森本学長より、表彰状と副賞（図書券）が手渡され、審査講評を行いました。来年度も実施予定ですので、お知り合いの方に高校生がいらっしゃいましたら是非ご案内ください。（橋元）

入賞者一覧〔敬称略〕

順位	氏名	在学高校名	テーマ
2位	板垣 拓希	立命館慶祥高校	グルメ
2位	真田 樹	立命館慶祥高校	グルメ
2位	仁木 勘市	札幌国際情報高校	観光スポット
3位	磯野 元斗	札幌国際情報高校	観光スポット
3位	高松 絵夢	札幌国際情報高校	観光スポット
3位	平地 春菜	札幌国際情報高校	観光スポット
3位	川口 ほのか	札幌国際情報高校	グルメ



森本正夫学長から表彰状が手渡された入賞者の皆さんと、表彰式の様子。
写真右上は応募作文の講評を述べる橋元理恵教授

研究のいま ● 李鳳 講師 「日本と韓国のポライトネス」

私は、日本と韓国のポライトネス(politeness)が言語表現の使用にどのように現れるかという問題を語用論の観点から研究してきています。ここでのポライトネスとは、Brown&Levinson（1978/1987）が初めて用い、円満な人間関係を確立・維持するための行動という意味で、言語・社会行動の分析に広く用いられている概念です。Brown&Levinsonのポライトネス理論では、人間の基本的な欲求としてフェイス(face)という高度に抽象的な概念があると考え、このフェイスには、ネガティブ・フェイスとポジティブ・フェイスの2つのフェイスがあるととしています。まず、ネガティブ・フェイスとは、他人に邪魔されたくない、立ちいられたくないという欲求であり、ポジティブ・フェイスとは、他人に好かれたい、他人に近づきたい、結束を高めたいという欲求であると説明できます。そして、Brown&Levinsonは、この人間の基本的な欲求として2つのフェイスを脅かされないように配慮することがポライトネスであると述べています。この理論に基づいて説明しますと、日本は、対人的な距離が遠く、間接的で曖昧な表現が好まれ、ネガティブ・ポライトネスが優勢だと思います。一方、韓国は、対人的な距離が近く、明確ではっきりとした表現が好まれ、ポジティブ・ポライトネスが優勢だと言えます。ただし、日本語や韓国語といった括りで済ませることは危険があります。例えば、一つの言語圏の内部でも地域、階層、性差と



いった要因によって言語使用はさらに多様に分かれます。

このような観点から私は、語用論的な知識に裏づけられた高度なコミュニケーション能力を育て、言語の実用的側面を重視した外国語教育を行うことに関心を持っています。

韓国語を学ぶ際、ハングルという文字と発音の習得、語彙の暗記や文法の理解など、韓国語の文法的な仕組みを学ぶことは

学習者の誰もが行うことです。しかし、身につけた韓国語の知識を実践の場で適切に使用するためには韓国社会のポライトネス・システムのような語用論的側面の知識も身に着けなければなりません。また、日本語を学ぶ際にも、同じことが言えるでしょう。

Thomas, J.(1983)は、外国語学習者の陥りやすい間違いを言語的過失(linguistic failure)と語用論的過失(pragmatic failure)に分けています。言語的過失とは、文法や使うべき単語を間違えた為に、相手に自分の意図を伝えることができなかった場合を指します。一方、語用論的過失とは、ある場面において、その社会やコミュニティーで適切とされる発話をしなかった為に、自分の意図したコミュニケーションが取れなかった場合を指します。外国語学習者はこの2つの側面を知らなければ、優れた実践者になることは難しいと思われます。

周知のように、日本語と韓国語とは、統語論・意味論的には類似していますが、語用論的な相違は少なくありません。とりわけ、語用論的過失を防ぎ、コミュニケーションを円滑に行うためにはポライトネスの概念が日本と韓国で異なることを理解していることが非常に大切であると感じています。



右から、保坂智先生、ゼミ生の西村さんと嘉屋さん

現在のゼミのテーマは台湾です。ホウ・シャオシェン（侯孝賢）監督の台湾映画「悲情城市」を題材に、台湾の歴史、文化、社会について学びます。また、台湾の文学、映画、音楽、美術、ファッション、デザイン、建築、食文化、生活文化、観光、スポーツ、メディア、テクノロジー、環境、エネルギー、宇宙、未来などについて学びます。また、台湾の歴史、文化、社会について学びます。また、台湾の文学、映画、音楽、美術、ファッション、デザイン、建築、食文化、生活文化、観光、スポーツ、メディア、テクノロジー、環境、エネルギー、宇宙、未来などについて学びます。

1年生前期（第1セメスター）の社会文化ゼミナール同様、続いて履修する異文化ゼミナールでも、一般教養科目に相当する哲学・倫理、アジア経済、時事英語、現代アジア論など、多彩なテーマが設けられています。ただ、学問的知識を養い、発表や討論を通し批判的思考能力を身に付けるという、ゼミの基本的な学習姿勢や取り組みに変化はありませんが、社会文化ゼミナールと異文化ゼミナールではテーマに対する切り口は大きく異なります。日本文化との比較でアジアや世界の文化を考察しようという保坂ゼミは、文化の多様性を尊重し、異文化を受容する力を身に付けることを学習の目標にしています。



ゼミ訪問

保坂智 講師 ● 異文化ゼミナール

国際社会で活躍できる人材の育成を目標としている本学では、語学同様、異文化に対する知識を深め、コミュニケーション能力を高めるため「異文化交流科目」を重視しています。1年生後期（第2セメスター）で選択する異文化ゼミナールもその一つで、今回は保坂ゼミを紹介します。

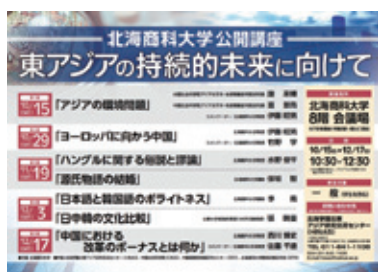
市（1989年制作）を手がかりにゼミは進められています。この映画はベネチア国際映画祭でグランプリ（金獅子賞）を受賞した世界的な名作で、第2次世界大戦直後の台湾社会を描いています。日本の植民地支配が終わり、蒋介石の国民党政府が台湾を支配下に置いた直後の時代ということになりますが、日本との関係や中国本土との関係など、現在の台湾社会をめぐる問題の多くはこの時代に凝縮されているといえます。ゼミではこの映画が提起する数々の問題、例えば台湾のナショナル・アイデンティティーの問題などについて議論が進められています。

今期のゼミ生は、ともに社会文化ゼミナールから継続して履修している嘉屋風紗さんと西村葵さん。嘉屋さんは「台湾への関心がこのゼミを選択した理由」といいます。ゼミ生が2人ということもあり、研究室を使い落ち着いた雰囲気の中で授業は進みます。西村さんは「少人数で学べるのがこのゼミの魅力」といいます。取材当日、それぞれが文献に当たってリポートをまとめ、発表を行いました。ほかのゼミに比べてもまとめる機会が多いといえそうです。保坂先生は「本や文献を読み、それを的確にまとめる能力を養うことも、このゼミの目標です」と語ります。



東アジアの持続的未来に向けて—が開催される

平成28(2016)年度 後期公開講座開催



第一回講師の中国社会科学院アジア・太平洋戦略研究センター
謝安輝氏(右)と富田氏

北海商科大学公開講座を上記の全体テーマの下で開催しております。

■日時：平成28(2016)年10月15日・10月29日・11月19日・12月3日・12月17日
(全5回、10:30～12:30)

■場所：北海商科大学8階会議場 ■参加対象：一般市民(含む学生)

本学の公開講座は平成19(2007)年度より前期・後期の年2回シリーズで開催し、本年度で10年目を迎えています。これまで「アジアの時代にアジアを学ぶ」という本学の特色ある教育に照らして東アジアの知的関心を高める内容となるよう留意し、実施しています。幸い、多数の関心ある方々の参加があり、恒常的な受講者も多数を数えています。今期は中国等アジアの環境問題、中国の対外投資、ハングルへの理解、日本の古典文学、日本語と韓国語の比較、日中韓の文化比較、中国の経済発展と人口の関係といった東アジアの環境・経済・文化に関する幅広い内容としました。単一文化に拘泥することなく、各国の多様性の中に異質性と同質性を見出そうとする努力から相互理解を深め、たゆまぬ国際協調への道を探求していくべき時代であると考えます。本講座が単に知識の習得にとどまらず、日本を含めた東アジアひいては世界の人々の間の共通認識・相互理解および交流の一助となることを期待しています。

次年度の公開講座についても、多くの方々の積極的な参加を期待しています。(伊藤)

体育祭 & 北海商科祭

去る11月12日、平成28(2016)年度体育祭がNTT北海道セミナーセンタ体育館を会場として2年振りに復活開催されました。今回のテーマ「No Limit ～限界を熱く超えろ!～」の下、29チーム、218名の参加者による熱戦が繰り広げられました。午前9時の開始時には少し冷えていた館内も、試合開始直後から学生諸君の熱気で室温は急上昇。競技種目は午前から午後1時過ぎまではバレーボール、その後は玉入れと大縄跳びでした。その間、学生諸君は食べ放題の人気メニュー、カツやエビフライのトッピングカレーでエネルギーをしっかりと補給しました。2時過ぎに和やかな雰囲気の中で集合写真を撮影した後、試合が再開されました。試合はその後順調に消化され、今回も実行委員会のプラン通りの大会運営となりました。試合終了後に行われた表彰式では、優勝や入賞したチームにQUOカードや学園生協のクーポン券が贈られ、体育祭は成功裡に幕を閉じたのでした。(佐藤南)



Photo Gallery

名誉教授称号授与

本年3月に退職された村越雅雄先生、菊地均先生、岩崎一郎先生に、北海商科大学より名誉教授の称号が授与されました。授与式は11月4日本学学長室で行われ、森本正夫学長より本学への長年の貢献が称えられました。村越先生は1977年赴任で哲学等、菊地先生は1979年赴任で貿易論等、岩崎先生は1983年赴任で統計学等の講義を担当されました。



左から、村越雅雄先生、菊地均先生、岩崎一郎先生、本学・森本正夫学長

UR都市再生機構 連携協定

9月16日、学校法人北海学園（北海商科大学・北海学園大学）は、独立行政法人都市再生機構（UR都市機構・東日本賃貸住宅本部）と道内大学として初となる連携協定を締結しました。これは、相互に連携を図り、同機構賃貸住宅団地及びその周辺地域における少子・高齢化などの諸課題へ協同で取り組み、さらに地域の活性化に貢献する人材の養成を目的とするものです。



本学・森本正夫学長（左）とUR都市再生機構東日本賃貸住宅本部・岡雄一本部長

アクティブラーニングへの取り組み

7月5日、商学科専門堤ゼミでは、不動産鑑定士協会、宅地建物取引業協会、関連企業経営者ら業界関係者を招き、学生の将来にむけた選択肢について、話し合う場を設けました。土業は人生に重くない肩書、特に女性にとっては育児後の社会復帰をスムーズにする有利な資格、業界が後援する講座があること等、多くの情報が提供されました。さらに登壇者がゼミ生と同じ目線になり、ディスカッションがなされました。この場を通して、ゼミ生は、将来を真剣に考えるようになりました。

11月1日、アントレプレナーシップ論講座の調査活動で江別市役所を訪問、堤ゼミ2年生が合流しました。江別は自然豊かな札

幌近郊の都市で、農工商連携の先進例にも選定された活発な活動をしています。企画広報室長が100頁以上の市内PR誌を全員に配布、これをもとに、江別に貢献してきた企業家一人一人について、エピソードを交え、熱く語られました。江別再訪に思いする学生は、本学近隣の商店街の活性化活動に取り組んでいます。江別の例は、とても参考になりました。（堤）



不動産鑑定士・宅建業界関係者を招聘したゼミ

医務室から『二十代の健康』⑩ 冬にも大切な「紫外線対策」

医務室 二瓶 妙子

紫外線は、夏は「UVB波」冬は波長の長い「UVA波」が、それぞれに、肌を赤くして急激な日焼けを起したり、肌に長期的に影響を与えて、しみやシワなどをつくることがわかってきました。

以下は、そんな紫外線の影響を受けた実例です。

「日焼け」に夢中になり、日焼けサロンや太陽の下で意識して皮膚を焼いた女性、その結果、21歳にして皮膚ガンを宣告されました。

また、28年間トラックに乗務した運転手の男性(69歳)は、運転席の左側から常に太陽光線を浴び続けていました。その結果、顔の左側半分に、シワ、たるみの老化現象が進んだのです。※

近年、大気層の減少により有害な紫外線や放射線による皮膚ガン増加が心配されていますが、「皮膚がん発生率世界一」とも云われるオーストラリアでは、1980年代からガン防止協会による全国的な皮膚がん予防キャンペーンが行われています。さらに、2015年からは、「日焼けマシン」の商業利用が全面的禁止に。また、児童の通学時の帽子とサングラス・日焼け止めクリームを義務化するなど、国を挙げての紫外線対策が行われています。

※下記サイトなどで写真を見ることができます。(2016.11.15確認)
<http://spotlight-media.jp/article/147660093922535846>
<http://www.nejm.org/doi/full/10.1056/NEJMicm1104059#t=article>

世界的には、「日焼けマシンは極めて高レベルの紫外線を放射し皮膚ガンの発症リスクを著しく高める」として、すでにブラジルが全面商用禁止に踏み切っているほか、米国の約30州と欧州のイギリス、フランス、スペインなど11カ国が禁止もしくは年齢制限を導入しており、規制が潮流となりつつあります。

では日本はというと、皮膚ガン予防のための紫外線対策を実践している人は、まだまだ少ないというのが現状です。

とはいっても、紫外線のリスクはジワジワと肌に影響を与えますので、夏はもちろん、冬や曇りの日にも日焼け止めクリームやUVカットレンズ・サングラスの使用、ビタミン類摂取、日焼け対策の長そで着用など、まずはできることから始めてみてはいかがでしょうか。



PROFILE ● 協定大学来日教員紹介 ●

張 曉曼 先生

ジャアン シアオマン

山東大学（威海校）の文化伝播学部教授、言語学専門博士課程指導教官。1967年に黒龍江省黒河市に生まれました。1989年に東北師範大学卒業し、文学学士号を得ました。1999年に山東大学を卒業して文学修士号、2004年に韓国釜山大学を卒業し文学博士の学位を得ました。国家・社会科学院などの20あまりの基金プロジェクトを主導し、国外の研究者と多方面で学術交流と協力関係を持ち、近年では、『四声通解研究』と『我が国のソフトパワー構築における中国語の国際普及戦略研究』という2冊の専門書を出版し、「言語接触環境下において中国語が韓国語に与える研究」などの20数編の論文を発表しました。今回、北海商科大学で中国語を講義することができることを非常に喜ばしく感じます。力の及ぶ限り努力する学生を指導すると同時に、さらに深く日本文化を理解し、経験できることを願っています。



于 伝鋒 先生

ユイ チュワンフォン

煙台大学日本語科講師の于伝鋒です。1980年3月に山東省德州で生まれました。2005年、山東大学(威海校)日本語科を卒業し、同年9月に北京師範大学大学院日本語科に入学しました。2008年7月修士学位を取得し、煙台大学日本語科の教師になりました。「第二言語教授法における日本文化の役割」「日本語の敬語システム及び習得ストラテジー」等の論文、そして『日本語誤用辞典』等の翻訳をしました。今年の10月、博士後期課程の留学生として、来道しました。この絶好の機会を活かし、博士学位の取得、視野拡大、異文化理解の深まりを目指しております。みなさんの交換留学や訪中を期待しています。



◆ 大学院生紹介 ◆

今年度後期から大学院商学研究科修士課程に2名が入学しました。栗艺菲(リーイーフェイ)さん、苏明伟(スウ ミンウエイ)さんはともに昨年交換留学生として来日、今年3月までの1年間を本学で学びました。6月に煙台大学を卒業し研究科生として再来日しました。栗さんは地域としての北海道の発展と中国との比較を物流などの分野から研究、苏さんは北海道の観光とその経済的効果について研究をします。将来について、ふたりは共にその研究成果を生かし、日本で働くことを考えているそうです。

新刊紹介



北海道史研究協議会創立五十周年記念出版『北海道史事典』
 北海道史研究協議会 編／竹野学(本学教員)他共著
 2016年6月／北海道出版企画センター



『日本帝国崩壊期「引揚げ」の比較研究 国際関係と地域の視点から』
 今泉裕美子ほか 編著／竹野学(本学教員)他共著
 2016年6月／日本経済評論社

浅羽祭 挙行される



学校法人北海学園主催による平成28(2016)年度浅羽祭が10月22日(土)に執り行われました。浅羽祭は本学園創立功労者である浅羽靖先生の名を冠し、この1年間にご逝去された北海学園教職員ならびに学生・生徒の御霊を、ご遺族・関係者参列のもと慰霊するものです。

行事予定

平成28(2016)年	
12/26(月)	振替講義日(金曜日)
12/27(火)	冬季休業開始
平成29(2017)年	
1/9(月)	冬季休業終了
1/10(火)	講義再開
1/14(土)・15(日)	大学入試センター試験
1/26(金)	卒業論文提出期限
1/31(火)	振替講義日(金曜日)
2/2(金)	後期講義終了
2/3(土)	学年末休業開始、成績開示、
2/3(土)・2/4(日)	成績・採点異議申し立て受付
2/8(火)	一般入学試験

2/13(月)	一般入学試験
2/20(月)	センター試験利用入学試験合格発表(Ⅰ期分)
	一般入学試験合格発表
3/1(火)	卒業生発表
3/3(木)	後期修学指導面談②(予定)
3/13(月)	センター試験利用入学試験合格発表(Ⅱ期分)
3/18(土)	卒業証書・学位授与式、卒業生を送る会
3/22(火)	学年末休業終了
3/23(日)	新3年次ガイダンス、新2年次ガイダンス
3/24(金)	新4年次ガイダンス
3/24(金)	新2年次履修登録
3/27(月)	新3年次履修登録、新4年次履修登録
3/29(火)	履修登録訂正日(全学年)